

朝日新聞 2011(平成23)年4月14日(木) 佐賀版 ぶらりミュージアム

ぶらり ミュージアム

県立博物館

蓄音機やレコードが発明される以前は、音楽を聴けるのは演奏された時の一度きりで、しかも限られた人々だけでした。それが1877年にアメリカでエジソンによって錫箔蓄音機が発明されて以来、多くの人がどこでも手軽に音楽が楽しめるようになりました。

ここで紹介するのはビ

クター社製初期型蓄音機

手でハンドル回し音再生

クター社製の蓄音機です。比較的初期のタイプで、1903～11年に作られたと考えられます。蓄音機で音を聞くには、手でハンドルを回し、針の上に付いた集音器でレコードから音を拾い、その音がアームを伝いホーン（ラッパ）から音が出ることによって聴くことができます。

現代のように電気で回転させるのではなく人の手によるので、技術が必要でした。これは卓上型で家庭用ですが、大人数での鑑賞会形式の場合は、大型の蓄音機が使われたようです。

（県立博物館 学芸課）
川副麻理子



曜。午後6時。休館日は月
分。開館は午前9時
物館前下車、徒歩1
3分。館前バス停
39分。電話0952-2415
23。佐賀市城内1の15の博

1903～11年／県立博物館蔵／戦前から昭和40年代までのレコードや手回し蓄音機などを展示する「レコード盤と蓄音機」を開催中（5月8日まで）。